



第33回日本脳ドック学会総会
スポンサードシンポジウム2

認知症疾患修飾療法時代における 次世代脳ドックの展望と課題

2024.6.14 (金)
15:05～16:05

広島国際会議場 B会場
(地下2階 ダリア①)

〒730-0811 広島市中区中島町1-5 (平和記念公園内)

※整理券は配布いたしません。

(会場前にお越しいただいた順番でのご入場となります。)

座長

黒田 敏 先生

国立大学法人 富山大学 脳神経外科

演者

島田 斉 先生

新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 臨床機能脳神経学分野

共催：第33回日本脳ドック学会総会／PDRファーマ株式会社
後援：日本脳神経核医学研究会／日本核医学会

演題

認知症疾患修飾療法時代における 次世代脳ドックの展望と課題

新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター 臨床機能脳神経学分野 島田 斉 先生

2023年12月、本邦においても認知症領域における初めての疾患修飾療法薬ならびにアミロイドPETが臨床実装された。2022年の第31回日本脳ドック学会総会においても演者が言及したように、今後は脳ドックもこれを踏まえた「次世代脳ドック」への進化が余儀なくされる。近年、認知症病態理解の深化やその評価に資するバイオマーカー技術開発の進歩は著しい。一方で、発症前を含めた認知症の超早期診断や予後予測、ならびに有効な発症予防・遅延に資する介入法に関しては、まだ十分に確立したものはない。次世代脳ドックのあり方を考える上では、認知症研究から得られたこれらの最新知見について十分に理解することが肝要である。

本講演では、バイオマーカーを駆使した最新の認知症脳病態評価について概説したのちに、各種バイオマーカーの意義と限界について説明する。さらに関心が高まりつつも、現行のガイドライン（「アミロイドPETイメージング剤の適正使用ガイドライン第3版」）においてはその認知症検診への応用は不適切とされるアミロイドPETについて、現状の整理とその課題について考察する。

日本脳神経核医学研究会及び日本核医学会入会のすすめ

日本脳神経核医学研究会は、日本核医学会の分科会として、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的として平成12年11月3日に発足しました。脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科など臨床診療に携わる医師、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、さまざまな課題に対応するために、ワーキンググループを設置して議論を深めていく予定です。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。

この趣旨にご賛同いただき、核医学の発展のために、是非本研究会、学会にご入会いただきますようお願い申し上げます。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内

Tel:03-3508-1243 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp

